

心地そのままに、 hマークのナンバー1マシン!

Fairlady S130 Z Twin Turbo

フェアレディS130Zツインターボ by トライアル

▼インパネ回りはノーマルだが、ステアリングコラム上に
取り付けられたブースト計が唯一の変更点だ



▶助手席のダッシュ
ボード下には、
リターダー(左)と
2速メーターを装
備。メーターは、
左が油温計、右が
油圧計となっている



去年の終わり、通称「谷田部」のテストコースで、最高速307・955km/h (T誌計測) という、国産チューンドカー史上前人未踏の大記録を打ちたたてたのが、このトリアルアルチューンドS130Zツインターボだ。エンジンは、L28をベースに3・0ℓまでスリーブアップ。これにギャレット製タービンT04を2連装。空冷インタークーラーは、HKS製特注だ。過給圧は、最大1・4kg/cm²まで上げることができのだが、最高速アタック時には、1・1kg/cm²まで抑えて走ったとのこと。それと言うのも、このマシン、420PSまで計測できるシャシーダイナモのメーターを3速で振り切ってしまうというから凄い。おまけに過給圧を1・4kg/cm²まで上げて全開にすると、頑丈といわれるし型のミッションがバラバラになってしまう程。まさにモンスターだ。

チューナーの牧原氏は「シャシーダイナモのメーターは振り切ってしまったので正確には分からないが、1・1kg/cm²の時点で、最高出力460ps/6500rpmぐらいのスペックでしょう」と語る。

これだけの話からすれば、かなりハードなチューンで、ストリートなどでは乗れないと思うのだが、これがまた実に扱いやすい。ストリートで普段の足として使っても何ら問題はないのだ。クラッチひとつとっても、B&Bのようなハードなタイプは使用せず、ツインプレートクラッチを使用しているのが、女性でもラクに扱えるほどクラッチは軽い。

また外装に目を転じても、フロントとリアにく控え目なスポイラーを装着しているだけ、かなり大人しい。言い古された言葉を用いるなら、この車こそ「羊の皮を被った狼、ノーマル然としたスーパースポーツと呼べるだろう。」